

福祉サービス第三者評価結果の公表ガイドライン

① 第三者評価機関名

NPO 社会福祉研究会

② 施設・事業所情報

名称： 静岡市立上土こども園	種別： 幼保連携型認定こども園
代表者氏名： 鈴木 洋子	定員(利用人数)： 120名 (107名)
所在地： 静岡市葵区古庄4丁目2-11	
TEL： 054-261-6044	ホームページ： http://www.city.shizuoka.jp/000_003874.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和23年11月1日	
経営法人・設置主体(法人名等)： 静岡市	
職員数	常勤職員： 20 名 非常勤職員： 12 名
専門職員	(専門職の名称) 名 保育教諭 8 名
	保育教諭 17 名 調理員 3 名
	調理員 3 名 事務員 1 名
施設・設備の概要	(居室数) 保育室 7部屋 (設備等) 給食室 調乳室
	遊戯室 事務室 トイレ 園庭 プール

③ 理念・基本方針

静岡市の基本理念	「静岡市は子どもを大切にします」
静岡市の目指す子どもたちの姿	「たくましく しなやかな子どもたち」
上土こども園 教育保育目標	「心もからだも元気な子」
重点目標	「人や物ともかかわりを楽しむ」
目指す園児の姿	○遊びや生活に意欲を持って取り組む子 ○思いやりのある子 ○心身ともに健康な子
<基本方針>	○子どもの現在を最もよりよく生き望ましい未来を作り出す力の基礎を養う ※一人一人の子どもを十分に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る ※人に対する愛情、信頼、人権を大切にする心を育てる ※豊かな感性を育て創造性の芽生えを培う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

○園庭のトラック内が芝生化され一年を通して乳児も幼児と一緒にのびのびと戸外遊びを楽しんでいる (2歳児からさくらんぼリズムを取り入れ、5月の親子で遊ぼう会(運動会)で披露)
○園児の日々の姿や園の活動を連絡帳(乳児・加配児)、お知らせボード(幼児)、クラス便り、写真などでその日のうちにわかりやすく伝え、保護者との信頼関係を構築している
○加配児には一人一人の発達や特性を踏まえた個別支援計画を作成、支援し統合保育に取り組んでいる
○ボランティアの方々による囲碁教室、お話の会、農業高校生との交流、地域の方とのふれあいの機会がある

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成30年10月15日(契約日) ~ 平成31年2月22日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	0 回(平成 年度)

⑥総評

◇特に評価の高い点

- ・公開保育において担当が保育実践を見る視点を模造紙に書き、参加者全員でKJ法様式を使用して課題、評価点などを記入し全体で情報を共有化し質の向上に努めている点は高く評価できる。
- ・遊びの連続性を重視し遊びが途切れないようにすることで子どもの主体性が育っている。
- ・障害を有している子どもや気になる子どもの保護者が、トーマスサロンにおいて卒園児の保護者との交流を通じて心配ごとや今後の見通しを持つ取り組みは評価に値しこども園は積極的に支援をしていることは評価できる。
- ・ボランティアの受入が子どもの保育教育に大きな役割を果たしていると同時に、地域の老人施設との交流も盛んでこども園内に止まらない保育姿勢は積極的である。

◇改善を求められる点

- ・人員不足が顕著であり、産休等で途中休業する職員がでると代替を確保することに苦労しておりこども園独自の取り組みには限界もあり抜本的な改善が必要と思われる。
- ・園舎自体が古く、クラス配置に苦労しておりホールを保育室にするなど定員と現員との差があり、定員そのものから見直すべきと思われる。
- ・地域の要望として待機児が相当数あり、また、一時保育が開始されていないことがあり、人員確保、園舎建て替えなどのニーズが高いことに行政としての努力が求められている。
- ・こども園独自の保護者アンケートでは、近隣小学校との連携を希望する保護者が多く一層の努力が求められる。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審するにあたり、園で行っている保育や運営を振り返り、今後に向けて見直す機会となりました。評価では園内研修（公開保育）の取り組みや園独自のトーマスサロン、地域との交流を高く評価して頂いた事は自信に繋がりました。保護者アンケートの要望にもあがっている近隣小学校との連携は課題でもあり、園児の主な入学先3校との今後の繋がりを更に深めていきたいと思えます。また保護者からのその他の意見や要望、地域のニーズに応えられるよう、今回の評価結果とともに受け止め、課題の改善に努めながら保護者・地域の方々から愛され、信頼されるこども園を目指していきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果〔保育所〕

※すべての評価細目について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

a 評価…よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b 評価…aに至らない状況、多くの施設・事業所の状態、「a」に向けた取組みの余地がある状態

c 評価…b以上の取組みとなることを期待する状態

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

保育所版共通評価基準ガイドライン

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
1	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>理念・基本方針は、全体計画、入園のしおりに記載されている。職員には年度当初の職員会議で全体計画をもとに理念、基本方針を説明、周知している。また全職員に全体計画を配布し常に確認ができるようにしている。保護者には4月の保育説明会で説明し伝え、新入園児に対してはオリエンテーションで「入園のしおり」で説明し周知を図り、同意を得ている。更に各保育室や事務室、玄関に掲示している。</p>		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
2	I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>年2回の管内ブロック子育て支援連絡会に参加し、子育て支援関係者との情報交換や意見交換を行い情報を得るとともに連携を図っている。また、おしゃべりサロン利用者数やアンケート、待機児童数から利用者の状況を把握、分析している。待機児は0歳が10人、1歳～3歳で3人の計13人が存在している。</p>		
3	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園評価シートには成果や課題が分析され、保護者会長、民生児童委員、学校教頭で構成されている学校評議員会にも報告し、指摘を聴取し、年度内・次年度の課題に繋げている。人員不足から地域的にニーズのある一時保育に取り組みおらず十分とは言えない。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>分野別の保育プロジェクト(14分野)が組織され、施設環境や人材育成計画、地域のニーズ等前年度の反省を活かした中長期計画書を作成している。職員全体で園評価の経過報告を、周知し、気になる点、改善点は、話し合っている。</p> <p>施設環境は老朽化に伴い修繕箇所も増えてくるので、優先順位をつけて計画的に環境整備を進めている</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>全体計画書に基づき、月毎、PDCAに添って担当同士が企画書を作成、職員会議で職員に報告し承認をとり実施後の反省も踏まえ、企画→実施→反省→次へと繋げることができている。</p>		

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は全体計画の園務分掌に基づき、プロジェクトごと担当職員が前年度の反省を踏まえ計画を作成し会議で周知している。月2回の会議を開催の他にも乳児、幼児会議を開き必要に応じて正規職員で見直すことが出来ている。不参加の職員には後日、報告し周知を図っている。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>事業計画は、重要事項説明書や保育のしおりに記載し配布、新入児にはオリエンテーションで説明、4月の土曜日には保育説明会を開催し継続児に対して年間計画を報告、説明を行い、その後のクラス懇談の際にも学級経営を周知している。毎月の園だよりやクラス便りを配布し周知し行事についてはその都度詳しいお知らせを配布している。</p>		

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		

8	I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園内研修で実施されている各クラスの公開保育において保育教諭の課題や子どもの育ちにつながる環境の在り方を模造紙を使ってビジュアル化し共有し学び合う機会を作っていることは保育の質の向上に対して出色の取り組みといえる。組織としては第三者評価を受審していない</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>第三者評価は受審していないが園評価において示された課題総括を行い職員間で成果と課題を共有し、課題に添った方向に対して意見を出し合っている。また、学校評議員の園内参観から出された意見を尊重し計画的な改善を行っている。</p>		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>園長は年度初めの会議でグランドデザインを配布し保育方針を職員に伝えると共に人事評価シート組織表やプロジェクト分担表などを作成し施設としての役割、重点目標を明確にしているが、「施設長の役割と責任」という点では、「公立」ということを考慮しても必ずしも十分とはいえない。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>遵守すべき法令等や園長会での研修を職員に報告し周知を図っている。また、eラーニングで情報セキュリティの学習等を実施している。各種マニュアルは事務室に常備し、職員がいつでも学べるようにしているが読了したか理解したかの確認が出来ず十分とはいえない。</p>		
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>クラス単位の計画に対し、園長、副園長より全体、個別に情報を発信し、保育のポイント、ねらいを明確にした事前準備を行い日常の保育が充実したものになるように導いている。人事評価としての当初面談・中間フォロー面談を行い、アドバイス、助言を行っている。</p>		

13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>毎月の勤務ローテーション表を早めに作成し配布している。更に日ごとの打ち合わせで一日の保育見通し・職員配置を副園長が検討し園長が確認している。プロジェクト、乳児会議、幼児会議への参加を行っている</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>静岡市における配置基準に従い、園児数や職員数を年齢区分表でこども園課に提出し、配置している。人員不足は課としてハローワークへ募集をかけているが依然、解消できていない。専門職の関わりはこども園課の看護師巡回が2ヶ月に1回、栄養士巡回年1回、薬剤師による保育室の環境について検査が計画的に実施されている。幼保の資格について32年度までに取得するように計画立てている。人材不足に対する自己取り組みも行っているが充足できていない。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>自己申告書や面談記録をもとに人事評価の中間面談を実施し意向や意見を聞き、今後の取組を確認している。非常勤、臨時、パート職員には希望調査を実施している。職員育成のための研修計画をたて、必要な研修に参加できるよう配慮している。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>職員の休暇取得や臨時・パートの就業状況の要望は園長が随時受け、保育に支障がないか副園長と確認をし応じている。ワークライフバランスとしてノー残業日を設け時間外、有給休暇をチェック労働環境の向上に努めているが人員不足のため正規の有休日数は4日以内が平均となっており、実態としての労働環境の改善は十分とはいえない。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>人事評価制度の組織目標シートをもとに個人目標シートを作成、職員一人一人の目標や成果指標を設定し、園長が一人ひとりの取組状況や達成に向けた取組に対し助言、指導を</p>		

行っている。		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	Ⓐ・b・c
<p><コメント></p> <p>静岡市教育育成指標・園長会主催の研修計画があり、その他の研修も含め、個別の職種、経験、担当に配慮し中長期計画を作成し、参加を行っている。研修後には参加者が研修報告書を作成し、職員で回覧又は会議で報告し学びを共有している。園内研修で正規職員は公開保育を実施している。同時に日案作成モデルにも努力している。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>園外の研修会に積極的に参加できるよう、事務所に研修の要項を掲示し全職員に周知したり研修計画を策定している。自己啓発としての研修にも参加できるよう配慮している。近隣のこども園の公開保育には積極的に参加すると共に園内においては初任者にOJT指導者をつけ自己向上につなげている。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>教育学部の大学生から中学生の体験実習まで年間20~30人の実習生を受け入れている。副園長が窓口となりオリエンテーションを実施、実習生一人一人の実習目的に合わせ、実習計画を立て各クラスに実習生を配属し、担当者より実習記録にコメントアドバイスを記入し、実習終了時には反省会を行っている。保護者には実習生の受入を事前にお便り等で知らせ理解を得ている。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>園評価の結果や今年度の取組みや改善策などホームページで公開している。事業計画、事業報告は保護者、学校評議員に報告し、予算、決算はこども園課に報告している。苦情、要望は園長・副園長を窓口として対応している。苦情及び解決結果の公表が十分とはいえない。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>幼児主食費は年間の歳入支出を毎月園長、副園長が確認し、年度末に決裁書を作成し父母</p>		

の会会長確認のもと検印を受けている。消耗費、備品費等配当された予算についてはルールに従って手続きを行い、予算内で園長、副園長で相談し、教育・保育に必要なものは現場職員からのリスト提案を受け計画的に購入している。

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>月1回未入園の親子を対象に「おしゃべりサロン」を実施している。サロンでは年齢に応じた教材、玩具を準備し安心して過ごせる場を提供している。ボランティアによる囲碁教室、お話を会を年長対象に月1回開催、農業高校生との交流、また老人デイサービスわかばへの訪問、リフレアへの慰問を行い高齢者との触れ合いを行い、双方にとっての癒し効果となっている。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>ボランティアの意義を明確にし方針を作成して受け入れている。種々の会議等で職員に周知し情報の共有化を図っている。特に活動の様子を写真撮影してビジュアル化し保護者にも伝えている。ボランティアに対してはマニュアルに基づき事前説明を行い受け入れ方針を伝えている。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	II-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>各関係機関の機能や連絡方法について一覧にして事務室に掲示、必要に応じて関係機関と連携を図っている。要保護児童や「気になる子、家庭」に対しては家庭児童相談所、児童相談所との連携を図り、必要に応じて子どもの様子や保護者の状況を報告するなど連絡を取っている。保護者への情報の「見える化」について十分とはいえない。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 保育所が有する機能を地域に還元している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>おしゃべりサロンや園庭開放など地域の保護者が気楽に遊びに来られるような環境を設定し保育所機能を地域に還元している。おしゃべりサロンでは、保健師、栄養士、歯科衛生士による話、園児と一緒に音楽コンサートに参加するなど楽しい企画を計画実施。ラジオのFMHIにおいても園の様子、活動などの情報を発信している。災害時を想定し地区支部職員を配置し訓練に参加している。</p>		
27	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a・b・㉑

<コメント>

東部地区ブロック子育て支援連絡会に参加し、近隣の未入园児の子育てサロンの参加状況や取り組みの情報交換を図っている。保健センターから健康診断で気になった子どもの園での様子を聞きに来るなど、連絡を取り合い連携を図っている。一時保育については実施できておらず十分とはいえない。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	㉓・b・c
<コメント> 倫理綱領や児童憲章、権利宣言などが全体計画の冒頭に掲載され、職員会議や公開保育などで実践の評価、課題を明らかにしており、一人一人の子どもの主体性を尊重した保育を行っている。		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a・㉔・c
<コメント> 個人情報管理に対しては重要事項説明書や確認事項で保護者に周知、同意書を取得し個人情報の書類SDカード、カメラは鍵のかかる場所へ保管しており、毎月1日に点検簿を全職員記入し提出している。連絡ノートはお迎えの際保護者と名前の確認をし、個人情報の配布書類は事務室で園長、副園長が保護者に渡す等慎重に行っている。事故が起きた時の初動対応シミュレーション訓練を実施した。		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a・㉕・c
<コメント> 4月～11月で見学者が30件と非常に多い園である。情報は園要覧においては年間行事等見やすい工夫をしながら作成しており、見学者や電話で受けつけ者に対して園長または副園長が対応して園内を参観し、様子を説明している。ホームページは最低のことが掲載されているにすぎず、読みやすさや情報の少なさ等発信は十分とはいえない。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a・㉖・c
<コメント> 新入园児には入园のしおり（重要事項説明書）を配布し説明、説明後に同意書を取得している。継続児については4月に保育説明会を行い、そのあとクラス懇談会を開いて説明している。就労状況等により保育時間の変更がある場合は必要な手続きを行い、園でコピーし管理、子育て支援課へ提出している。		

32	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a・ ③ ・c
<p><コメント> 指導要録の取り扱い手順に基づき、転出入の園児の情報小学校就学へ情報提供している。 親 展文書にて慎重に対応している。卒園した保護者からの要望や相談も園長、副園長が窓口 と なって行っている。</p>		
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	① ・b・c
<p><コメント> 懇談会、年2回の保育参加会、1回目後の面談実施を行っている。父母の会活動も活発で独自に体幹トレーニング等を開催したりしており、父母の会行事には園長あるいは副園長が出席し支援を行っている。保護者アンケートでは利用者満足度の分析を行い、結果を公表している。</p>		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・ ① ・c
<p><コメント> 苦情解決マニュアルと対応フローチャートに基づき園長、副園長が窓口となり対応している。福祉サービスの苦情解決ポスターを事務所に掲示しているが意見箱の設置の場所や公表システムについての配慮は十分とは言えない。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a・ ② ・c
<p><コメント> 計画的に保育参加会後に面談、必要に応じた面談を設けている。発達に関する相談に対しては専門機関の紹介をしている。相談時には事務室に張り紙をしプライバシーの確保に努めるなど努力しているが環境としては十分とはいえない。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・ ③ ・c
<p><コメント> 行事参加後にはアンケートを実施、集計し、保護者アンケートから出されている要望や改善策については取り組み状況を保護者全員にお便りで返している。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	① ・b・c
<p><コメント> 玄関の門扉の鍵を二重にしており、玄関戸施錠も送迎時間以外は閉じており不審者への対策と共に園前が交通量の多い道路のため十分は配慮がされている。遊具点検は毎朝、早番が点検し危険防止を行っている。ヒヤリハットプロジェクトで分析を行い、全体で論議す</p>		

るなどマネジメント体制がある。		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>嘔吐処理グッズが各部屋に備えられておりフローチャートも各部屋に掲示されている。個人健康カードで家庭の様子を把握しており、職員の健康にも配慮するなどの取組を行っている。嘔吐した場合の隔離部屋も設けられており取組みがされている。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>災害時対応策として、火災・地震等を想定し月1回避難訓練を実施している。9月に実施された保護者への引き渡し訓練時にはカードに記載するとともに避難場所や災害に対する意識啓発に努めている。備蓄品は3日分を保存している。また、災害時にはメールの一斉送信ができるように登録を行い整備している。</p>		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>こども園の全体計画を作成し保護者へは重要事項説明書にも記載し説明している。職員内としては指導計画の立案にも園長、副園長が関わり見直しが行われている。PDCAに基づいた振り返りが実施されている。模造紙を使った公開保育などが有効に作用している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>PDCAサイクルが企画→実践→チェック→見直しとして機能しており、自己評価においても指導計画に沿いながら見直しを実施している。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>加配対象児童の保護者に対するサポートとして卒園児の保護者を招き「トーマスサロン」として相談や話し合いを行う機会を年4回計画実施している。就学先の様子や就学に向けて必要な情報をもらえ保護者同士が交流する場となっている。個別の指導計画に反映させるなどアセスメントにもとづく指導計画を策定している。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	㉑・b・c

<p><コメント> 歳児別指導計画を公開保育で職員全員で点検し意見を出し合い、見直しを行っている。出された意見を集約し次の計画に反映させている。</p>		
<p>Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。</p>		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a・ b ・c
<p><コメント> 月案、週案などに対する管理者の指導があり、実施状況は記録されている。月2回の職員会議で保育実践の状況が共有されている。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・ b ・c
<p><コメント> 個人情報にかかる文書・記録は鍵のかかる鉄庫に収納し、正規職員のうち、カギ遅番が確実に施錠をして管理し責任の所在を明確にしている。廃棄文書は市の年に1度の回収時に提出している。情報流失防止チェックリストを職員に配布して意識啓発をしながら管理している。</p>		

保育所版内容評価基準ガイドライン

評価対象 A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
A ①	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a・ b ・c
<p><コメント> 保育課程はグランドデザインに基づき理念、方針、目標を立て編成している。気になる子への対応なども個別に指導方針を立て実践しているが、待機児などがあり地域を意識した保育過程としては十分とはいえない。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
A ②	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a ・b・c
<p><コメント> 温度湿度の適正化への取り組み、清潔で安全な環境への取り組みがなされている。また、玄関前には畳コーナーがあり、絵本の貸し出しがおかれ、迎えに来た保護者が子どもに本を読み聞かせる環境を整備している。</p>		
A ③	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a・b・ c
<p><コメント></p>		

<p>発熱は38°を目安に保護者に連絡をとっている。保護者の就労に合わせ臨機応変に弾力的に対応している。一時保育を標ぼうしているが実際には実施できていない。外国人への対応も予測されるが取り組みはされておらず一人ひとりへの対応は十分とは言えない。</p>		
A ④	<p>A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。</p>	a・ b ・c
<p><コメント> 保育室の清掃、整備や玩具の消毒などをこまめに実施している。園内における危険個所の点検等は問題ないが、家庭環境への調査、配慮の把握については十分とはいえない。</p>		
A ⑤	<p>A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a ・b・c
<p><コメント> 玩具を常に園児の手の届く環境にしており、一律に玩具をしまわないように配慮し、自らが自分のしたい材料を使い、創作活動ができるような環境を設定している。</p>		
A ⑥	<p>A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a ・b・c
<p><コメント> 乳児の一日の生活リズムを見通し、一人ひとりの家庭での様子の記録を把握しつつ睡眠（午前睡、午後の様子）をこどものリズムに合わせ生活を構成している。保育教諭は養護を重視しゆったりと温かいかわりで愛着関係を築くよう保育の展開を行っている。</p>		
A ⑦	<p>A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a ・b・c
<p><コメント> 建設年次が古く、人数と部屋面積が合致せず苦勞している。その状況下においても乳児が自由に玩具等を手に取り遊べるように工夫されており、遊びや生活が中断されないような保育実践を行っている。</p>		
A ⑧	<p>A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a ・b・c
<p><コメント> 公開保育や日案研修などを通じて縦の繋がりに配慮した保育を行っている。子どもの発達段階に応じて保育計画をたて、公開保育で職員全体で点検し、「遊びマップ」で環境構成を保育の中に取り入れている。他の保育園の公開保育も積極的に見に行き学びとしている。</p>		
A ⑨	<p>A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a・ b ・c
<p><コメント> サポートプランを作成し、職員会議の場で園児の姿の伝達を行い全職員が同じ方向性で関わっていけるようにしている。定期的に保護者面談も実施し共通理解を図っている。また、いこいの家の指導員による訪問指導を受け支援に生かしている。保護者もいこいの家へ訪</p>		

問し園の様子の報告と援助を受けている。		
A ⑩	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>7:00~19:00まで保育しており、早番、遅番パート職員から引き継ぎを受け、延長日誌などを活用し保育教諭同士で情報を共有している。18:00を過ぎる子どもにはおやつ（補食）を提供し、遊びを楽しみながら迎えを待つように工夫している。</p>		
A ⑪	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>卒園児は主に3小学校へ入学することが多い。該当の3小学校には情報提供する時に入学児の様子を伝えている。千代田東・千代田小学校・西奈南小学校とも交流を始めている。</p>		
A-1-(3) 健康管理		
A ⑫	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>園のしおりには感染症情報が細かく記載されており与薬への注意事項も掲載されている。乳児は朝と午睡時の検温し幼児は必要に応じた検温して体調を管理している。嘔吐グッズも各部屋に備えられ研修も実施されている。</p>		
A ⑬	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>健診後速やかに結果を保護者に伝えている。更に予防接種を含め医師からのアドバイスについては保護者に周知している。歯科についても幼児は歯磨き指導（年1回）、4、5歳児は食後の歯磨きとフッ素洗口を実施して歯の健康を維持している。</p>		
A ⑭	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入園児アレルギーの有無を確認しアナフィラキシーショックに対して気をつけている。主治医の指示を受け対応している。現在107人中4人にアレルギー症状があり職員間で情報を共有し給食室に伝えるように徹底している。対象児の保護者と毎月面談を行い、除去食については弁当持参（市の方針）となっており、アレルギー食対応としては十分とはいえない。</p>		
A-1-(4) 食事		
A ⑮	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>季節に応じて幼児は野菜の栽培を行っており、クッキング保育を実施することで「食」への楽しみを作り出している。給食のサンプルを玄関に設置することにより親子で会話ができ家庭でのメニューに反映され食べることへの興味を醸成している。</p>		

A ⑯	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>無理強いをせず、おかわりも可能で食べたことへの達成感を感じられるようにしている。市の献立をベースにしながらい園の行事等でアレンジしている。検食は園長、副園長が行い、残食調査も行い、安全で安心な食事提供を心掛けている。</p>		

評価対象 A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
A ⑰	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>1日の様子を乳児は連絡ノート、幼児は活動内容をお知らせボードに記載することで保護者の迎え時に伝わるようにしている。また、写真を掲示することで日常の様子を視覚的に見える化を行っている。保護者会の自主的活動も活発で取り組みがされている。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
A ⑱	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>保護者が悩みや不安を相談できるよう、窓口を園長、副園長が努めている。職員に相談があった場合も1人で答えるのではなく園長等へ報告し組織的な対応を心がけている。玄関には冊子、ポスター、チラシなど置き情報を提供している。相談環境は十分とはいえない。</p>		
A ⑲	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>日常的に保護者の様子を把握し寄り添うことで共感支援を行っている。主に園長・副園長が対応し、状況により家庭児童相談所・児童相談所と連携をとり対応している。</p>		

評価対象 A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		
A ⑳	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>日案研修を実施し、自己評価から課題を見出し具体策を検討している。専門性を高めるための研修へは人員不足から十分に参加できないことが課題としてあげられる。</p>		

